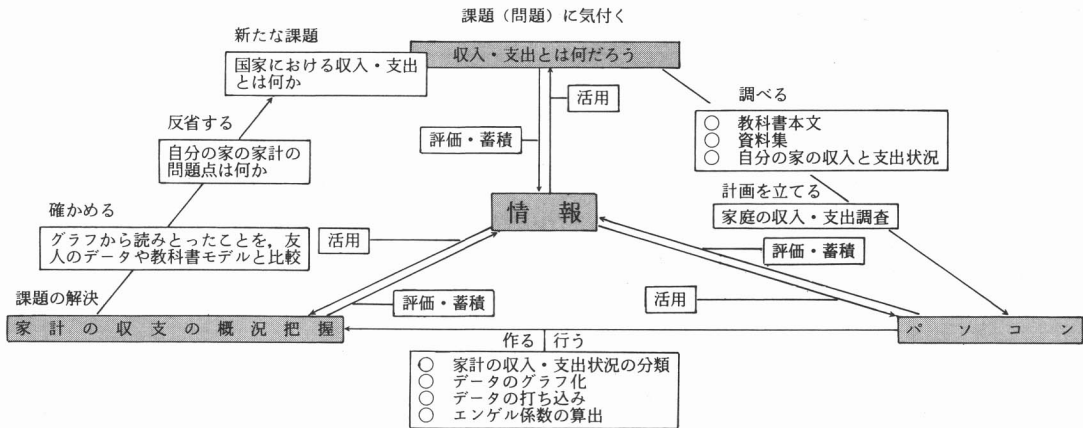


② 情報活用能力の育成プロセス



2. 研究実践の概要

(1) 単元名：「私たちの生活と経済」より「くらしと経済」

(2) 単元の指導目標

- ① 日常生活における小遣いや家計の用途を通して「経済」とのかかわりのある部分に気付かせる。
- ② 「家計」という身近な経済を分析しながら、商品経済とのかかわりについて理解させる。
- ③ 経済の主体（「家計」、「企業」、「政府」）とその働き及びそれらの相互関係を理解させる。

(3) 単元の指導計画（総時間数 3時間）

ア) くらしと経済…………… 2時間（本時）

- ① 私たちの生活の成り立ち…………… 1
- ② 毎日のくらしと経済…………… 1

イ) 家計と企業と政府…………… 1時間

(4) 本時の目標

ア) 家計の収支を通して、日常生活と経済とのかかわりを理解させる。

イ) パソコンに家計に関するデータを入力し処理させながら、「情報を主体的に処理する」能力及び「情報を積極的に創造する」能力を養う。

(5) 本時の意図

本時は単元「経済」の第一段階なので、経済とは何かということをも身近な例で具体的に理解させていく。個々の家庭の事情に余り深入りしない程度に自分の家庭の収入・支出のようす（金額又は項目ごとの比率）をパソコンに入力させ、それを分析したりグラフ化しながら「経済」に対する理解を深め、関心を高めさせる。

(6) 本時における小单元内容と育成すべき内容との関連

小单元内容	時間	育成すべき内容					追究の手だて	期待される生徒の姿
		C	D	L	I	H		
・日常の身近な例から「経済」の概念をつかむ。	1	○	○			○	・自分の小遣いの支出状況をパソコンに入力し、分類・分析させる。	・自分の小遣いの用途の特徴を知り、グループ内で比較しながら、より望ましい使い方に気付く。